

令和7年度 青少年の家不登校対策事業「第4回ふれあいキャンプ」事業報告書

1 事業内容

(1) 趣 旨 青少年教育施設において、学校生活に悩みを持つ児童生徒を対象に、学習活動、自然体験活動、集団活動、仲間との交流を図ることで新たな自分に気付き、周囲との関係について学び、自分を見つめ直そうとする機会の提供に資する。

(2) 対 象 県内の不登校傾向が見られる小中高生 20名程度

(3) 期 日 令和7年10月25日(土)～10月26日(日) 1泊2日

(4) 場 所 香々地青少年の家

(5) 参加人数 24名 (児童生徒18名、保護者6名)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男子			1		2	1		2		6
女子	1	1	1	1	2	1	2	2	1	12
合計	1	1	2	1	4	2	2	4	1	18

(6) 講 師 大分大学教授 溝口 剛 氏、大分大学講師 増田 和真 氏

(7) 支援者 大分大学学生 20名

(8) プログラム テーマ「かかぢで発見しよう」

①活動Ⅰ：「買出しに行こう」

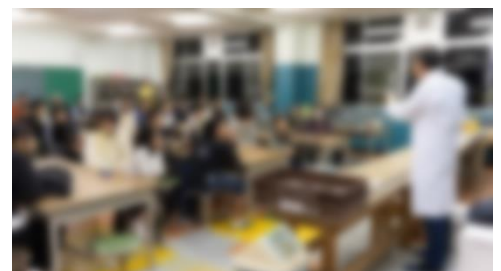
「買出しに行こう」では、たこ焼きに入れるものをグループで話し合い、近隣スーパーに徒歩で買い物に出かけた。ふれキャン版遠足を意識した。メンタルフレンドや参加者同士で話しながら、歩いた。スーパーでは予算内に収まるよう何度もレジに並んだグループもあった。たこ焼きに何を入れるか何が嫌いかなど「相手を意識した」「コミュニケーションをとる」「仲間のことを発見する」活動としては、好きなものを購入できることや所から出て初めて歩く活動だったためか、随所で笑顔が見られた。

仲間と道草をくう行為も大切な経験ととらえ、仲間と走ったり、カラムシの葉を鳴らしたりと楽しんだようだ。



②活動Ⅱ：「おもしろ科学実験」

香々地小学校長の徳本修先生をお迎えして、「浮沈子」の実験をしていただいた。参加型の実験だったので、全員が意欲的に活動に参加し全員が成功した。先生の優しく受容的な言葉かけに、質問をしやすかったようで、実験しながら質問する子どもの様子が見られた。自分だけの「浮沈子」ができて、全員が家に持ち帰った。



### ③活動Ⅲ「ドラム缶風呂」

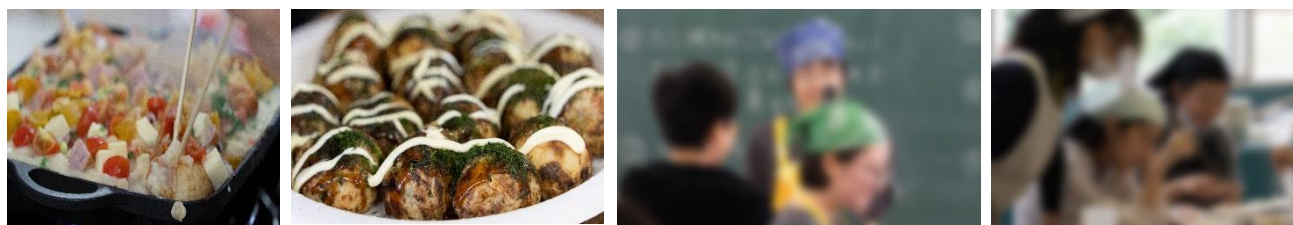
ふれあいサマーキャンプが雨天でできなかったため、今回実施した「ドラム缶風呂」。参加者の半数が体験した。職員手作りの下水板（底板）を使って上手に沈むことができた。近くに足湯も設置したため、待つ間のおしゃべりの場となっていた。



### ③活動Ⅳ：「たこ焼きパーティー」

前日購入した具材を入れてみてどんな味になるかの発見の場として、たこ焼き経験者の腕の見せ所となる場として、様々な発見の場となればと設定した。保護者グループも作ったので、知り合うきっかけとなったのではないかと。

「自分クイズ」を予定したが、実際にクイズを出した参加者は2名で、出したいが仲間が出すなら躊躇した参加者が1名だった。クイズを出したい人のみ実施だったが、たこ焼きを作ることやグループ内での会話で十分楽しんだようだった。



## (9) 事業評価

### 参加者アンケート集計（対象：1泊2日参加者15名）

#### 1. キャンプの満足度

	4	3	2	1	平均
買出しに行こう (16)	13	3			3.8
おもしろ科学実験 (16)	14	2			3.6
たこ焼きパーティー (14)	13	1			3.9

#### 2. 自己評価

	4	3	2	1	平均
活動に積極的に取り組むことができた	13	3			3.8
キャンプを楽しむことができた	16				4.0
MF や友だちと話げできた	13	3			3.8
自分のことは自分でする	10	3	1	2	3.3
MF やともだちの気持ちを考えて行動できた	8	5	1	1	3.3

## メンタルフレンドアンケート集計（対象：メンタルフレンド3年生18名）

	4（変化大）	3	2	1（変化小）
意欲	5	9	2	2
コミュニケーション	7	5	3	3
自己肯定感	8	2	7	1
自立	2	6	6	4

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- どの活動も満足度は高かったので、楽しんだと思われる。  
5年ぶりくらいに遠足を兼ねて、敷地外に出てみた。往復3キロ程度だが、最初の活動だったことや久しぶりに体を動かす参加者もいて、疲労感があったようだ。満足度は高かったものの、その後の活動で眠そうな参加者がいた。
- 参加者数が過去例にないくらい多数で、にぎやかだった。「初参加の子供の笑顔が見られたことに喜ぶ保護者の感想が、不登校の子供をもつ保護者の心情だ」と溝口教授がおっしゃっていた。保護者の感想を職員も忘れないようにしたい。
- 参加者への対応の工夫について、MFからの質問に溝口教授が回答した。職員を含めた研修の場として深い学びの場だった。

#### (2) 課題

- MFの評価について、今回は厳しかった。今回の結果の特徴として、参加者は活動を楽しんだり自分なりのコミュニケーションをとったりできたと考えているが、MFの評価に乖離がある。観点に乖離があるかもしれないので、次回は評価の観点となる行動や発言を活動ごとに提案する。
- 参加者数や活動増加により、表情や心情をみとる機会が減少しないよう職員の役割分担を確実にしたい。

#### (3) 子どもたちの声（メンタルフレンドに対して）

- 毎回僕の強いボールを受けようとしてくれてありがとうございます。最後にはたこやきの「熱いのがまん」などをやっていただいてとてもうれしかったです。2日間ありがとうございました。
- とっても楽しい時間をありがとうございました。楽しすぎました。
- 次のキャンプでもいっしょに遊んだりいろんなことをしたりしたいです。またいつかあいたいです。
- みんなありがとう。1月まってるぞ！！
- 2日間ありがとうございました。
- 楽しかったよ。また1月にくるけん会ったらよろしく～。
- たのしかったよ。
- 二日間つきそっていただきありがとうございました。買出しで計算してくれたりいっしょにゲームで遊んでくれたり翌日もお話につきあってもらったりしてありがとうございました。次回にも時間があれば、ゲームやりましょう。それではまたいつか！！
- 買出しに行くときにゲームの話聞いてくれて、楽しかったです。絵を描きたくなった時もペンを探してくれたのが、とてもうれしかったです。ありがとうございました。
- いろいろ手伝ってくださりありがとうございました。とても楽しい2日間になりました。眠いです。